

第2章 田村駅周辺のまちの現状

田村駅周辺のまちの現状について、長浜市人口ビジョンにおける目指すべき将来の方向に加え、田村駅周辺のまちの構造としての物理的な現状を、以下のとおり整理しました。

(1) 長浜市の目指すべき将来方向 ～3つの基本的視点(「人口ビジョン」から)～

視点① 三大都市圏及び滋賀県南部への人口流出の抑制

まち・ひと・しごと創生総合戦略が示す「東京一極集中の是正」という基本的視点や、**滋賀県南部の各地域への転出超過**の状況を踏まえ、本市に住み、働き、豊かな生活を送りたい人を増やし、その希望をかなえられる社会環境を実現する。

視点② 若い世代の就労、結婚、「妊娠・出産・子育て」の希望実現

将来にわたって安定した人口構造を維持していくため、若い世代、**とりわけ子育て世代の転出超過**の状況を踏まえ、これらの世代が本市で安心して就労し、希望通りに結婚し、妊娠・出産・子育てすることができる社会環境を実現する。

視点③ 地域の経営資源を生かした課題解決と地域活性化

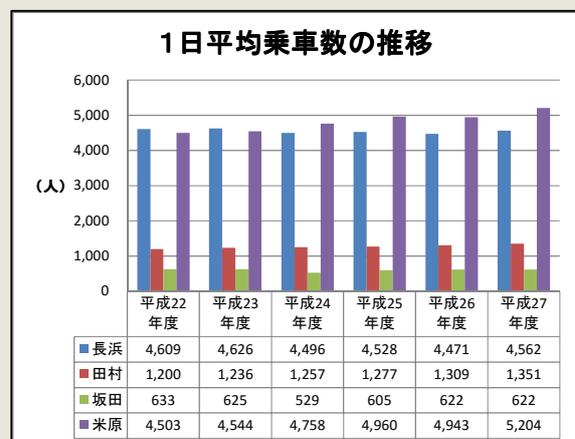
人口減少が不可避である現実を踏まえ、人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応しつつ、民間を含めた経営資源を最大限利用し、地域が直面する課題の解決を図り、市民が将来にわたって安全・安心で心豊かな生活を営むことができる都市を構築する。

(2) 田村駅の現状 田村駅は地上駅で、市街地を分断しているため、人の回遊性が弱い

- 1日平均乗客数約1,300人の木造の無人駅。エレベーターの設置など、連絡橋のバリアフリー等の環境整備が未対応となっています。

- 駅東には市営駐車場(166台)・駐輪場(318台)が立地し、また駅東のロータリーでの朝・夕の送迎利用も多くなっています。

- 駅東西の人と自動車のアクセスは、駅南側の県道加田田村線が主要な動線となっていますが、人の往来はほとんど見られません。



- 駅利用の通勤・通学者は1日1,000人を超えていますが、駅東西間における移動(来訪)目的がないため、駅周辺において、人が流動・回遊することがほとんどありません。

(3) 田村駅前の現状 駅前に日常の生活利便機能が少なく、賑わいが少ない

- 大規模商業施設が長浜駅周辺に集中している一方、田村駅周辺には、店舗や日常のサービス施設などの立地がなく、駅前の生活利便機能が不足しています。
- 田村駅前には、卸売市場が立地していますが、卸売市場という特性上、施設の稼働は午前が中心となっています。



長浜市内の大型商業施設（出典：東洋経済）

(4) 田村地区の現状 集落や田園風景など豊かな歴史自然資源に恵まれている

- 周辺田畑は管理の行き届いた営農地となっており、のどかな田園等の風景や既存集落の歴史観漂う町並みを維持しています。
- ただし近年、駅近傍から新規戸建住宅等の建築の点在が見られ、今後、個別の民間開発による農と住の虫食い土地利用が懸念されるところです。



(5) 周辺の地域資源 周辺に特徴的な地域資源が多く分布している

- 周辺には、長浜バイオ大学、滋賀文教短期大学、長浜地方卸売市場のほか、長浜バイオ大学ドーム（滋賀県立長浜ドーム）、長浜サイエンスパーク、田村山、琵琶湖など、特徴的な地域資源が多く分布しています。

